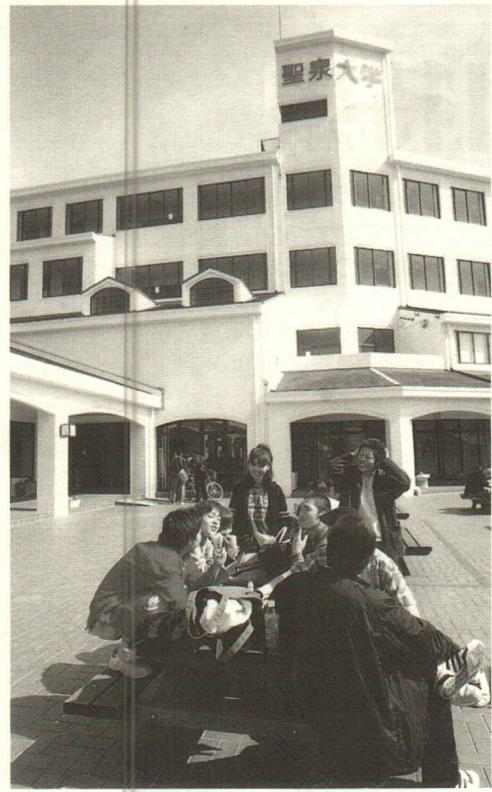




もっと知ろう地元の大学「聖泉大学」



昭和60年の春、地元の方々のご協力によってこの肥田町に開学した本学は、18年の歳月を経て、本年4月からいよいよ聖泉大学として第一歩を踏み出すことができました。

同時に従来の聖泉短期大学の名称を聖泉大学短期大学部と改め、現在は介護福祉学科と企業マネジメント学科の学生達を迎えた学園として4,000名を越える卒業生を社会に送りだしました。

本学は、キリスト教の教えを建学の精神として、地域に根ざした学園として4,000名を越える卒業生を社会に送りだし

まで築いてきた教育を基に4年制課程「人間学部」のなかに県内の大学としては初めて「人間心理学科」というユニークな学科を開設いたしました。

今の日本は、生活そのものが豊かになつた反面で、感謝する心、人を敬う心が薄れ、精神的充足感が得られない人や人間関係に心を痛める人が増えています。長引く不況もこの傾向に拍車をかけていますが、このような現象を育てる心理学に、高い関心があるのです。

今後、聖泉大学では県下の各学校、行政機関と連携を取り、不登校児童生徒への対応について調査研究を行うとともに「教育力ウンセリングセンター」を設立し、児童生徒、教育現場、家族への援助につなげていきたいと計画しております。

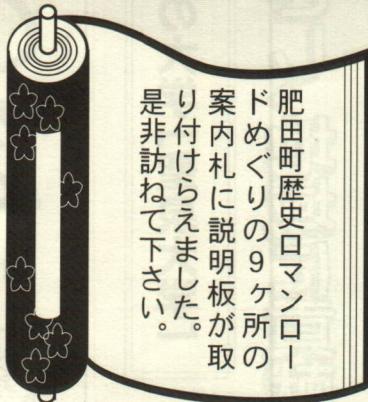
ところで近々本学は正門前の約2万m²の土地を運動場として造成する予定です。これについては地元地権者の方々の暖かいご協力が得られ、心から感謝しております。運動場が完成すれば、グランドゴルフ、フットサル、陸上競技など幅広い屋外スポーツが可能となります。

聖泉大学は、地域に開かれた大学として、今後とも保有する施設や知的的資産を地域の人々が積極的に活用されるよう協力したいと考えております。新しくスタートいたしました聖泉大

「わたしたちのふるさと」特集

彦根市教育委員会では、今日、完全学校週休5日制も生まれ、子供たちがゆとりある生活の中で、日常にさまざまな体験を通して自ら学び、考える力や豊かな人間性を育み、健やかな成長を促していくことを願っています。そのためにも学校と家庭そして町も夫々その役割と責任を自覚して子供たちに積極的にかかわってほしいとの願いがあります。その様な願いの中で企画されたのが小学生対象では、「わたしのふるさと」の作文の募集でした。既に今日までに17回の回を重ねて努められています。

私たちの肥田町からも毎年入選された作品が近江同盟新聞にも掲載されていますが、ここで特集しました。成長期の子供たちへの皆様のご理解を深めていただきとともに、その郷土への誇りと愛着の芽生えを大切に育み、文化の伝承の力強い担い手とし皆さんのご支援を願います。尚ここに紹介しました二人は現在は中学生に成長されています。ともに小学校6年生の時の入選作品です。



「ぼくのふるさと」

薩摩 祐大

ぼくの住んでいる肥田町は、とても歴史の古い町です。三年生の時に、ぼくの家の近くに肥田城があったことを両親に教えてもらいました。四年生になって、肥田町で土器が発見されたことを知りました。そして昨年、総合の勉強で水争いがあったことを知りました。ぼくは、もっともっとふるさとである肥田町のことを知りたくて、自分の足で、目で確かめにいきました。

まず一番目に行ったのが、町内にある崇徳寺です。ここには、土器や昔の資料がたくさんおいてあります。昔、たか橋の下の宇曾川が洪水となり水があふれるので、宇曾川を大きくするために堀っていたらその土器が見つかったそうです。歴史で勉強した縄文式土器のようでした。しっかりとした形で残っているので、びっくりしました。次にこのお寺の方に話を聞いていると、今の神社の近くに肥田城があったそうです。それでぼくは、自分で確かめに行きました。そうすると、本当に神社の近くに小さな小屋みたいな石の塔が立っていました。

今から五、六百年前に、ここに城があったのかと思うとなんだかドキドキしてきます。この城を水びたしにして攻めようとしたらしいですが、幸運にも雨が降り水が流れ出し、何とか城を守ることができたそうです。また、近くに流れる宇曾川は、大雨が降るとすぐに水があふれ、肥田町や近くの町は水びたしになり、お米がとれない年もよくあったそうです。また、近年までは、稻作に必要な水をひくのに、水争いもあり、一晩中、川の水守りもしていたそうですが、今は逆水になり、安心して稻作づくりができるようになりました。また、崇徳寺の庭には石碑が建てられ、「戦争中ここに防空壕があった。B29の爆音をこの中に何度も聞いた。とにかく過ちをくりかえさないため、この碑をたてる。」と書いてありました。お寺の方は、ここで何度もB29の爆音を聞いたそうです。戦争というと、ぼくとはずい分かけはなれた昔のことと感じていたけれど、自分のすぐ近くにこんなところがあったなんて想像もできませんでした。

ぼくは、学校の勉強でふるさと肥田町のことを調べていく中で、この肥田町はとても歴史の深い町なんだなあと思いました。そしてぼくたちの先祖が、この町を守るためにいろいろな努力をし、今日ここまで大きあげてくださったのだなあと感謝の気持ちでいっぱいになります。普段、何気なく見ていた田んぼや宇曾川、何気なく遊んだ神社や寺、ここは僕たちのふるさと、肥田町の宝物だと思います。そしてこれからはぼくたちがその宝を守っていきたいと思いました。

歴史の古い肥田町「わたしのふるさと」

成宮 衣代

私が住んでいる彦根市肥田町はとても歴史が古い町です。肥田町は、近くに宇曾川という川があって、たくさんの田んぼにかこまれている町です。人口は、約400人で、寺が四つ、お宮さんが二つです。春、さくら公園にさくらがきれいに咲きます。登町、西町、東町にわかれていて、縦に長い町です。

肥田町には昔、肥田城というお城がありました。お城は今は無いけれど、肥田城址が肥田町公民館の花壇の所にあります。前は違うところにありました。2000年前、ヒダの地には人が住んでいたらしいです。それがわかるのは、「肥田西遺跡」と呼ばれているところから、弥生時代中期ごろのものとされた、食物を貯蔵するためのつぼ、にたき用のかめなどが出土していたらしいからです。私達は最近、社会で大昔のくらしを勉強していました。この肥田の地に、2000年も昔の人が住んでいたのは、すごいなと思いました。

肥田にある四つの寺は、崇徳寺、興輪寺、長樂寺、法光寺で、二つの宮さんは、金刀比羅神社と住吉神社です。

明治22年に、町村制が施行されて、三津、海瀬、金沢、野良田、稻部、稻里、金田、肥田、彦富のあざで稻枝村が出来、肥田小学校、稻里小学校、金沢小学校、彦富小学校の四小学校が出来ました。私の家の近くにありました。

夏休みに、ラジオ体操が終った後、町まちづくり委員会の人が、「あいさつシール」をくれます。「あいさつシール」は、肥田町の人が、たくさんあいさつを交わすようにと、作ってくださった物です。私はあいさつを出来るだけしようと努力しています。いつか、肥田町の人だけでなく、他の町の人とも、必ずあいさつが出来たらいいなと思います。

この肥田町は、歴史が古いため、これからも良い肥田町にするために、いろいろがんばりたいです。また今ある寺や、お宮さんを大切にして、新しい公民館も大切にしたいです。

